

◎金融機関の顧客を対象とした継続的な体験プログラムの提供を通じた交流によるファンづくり

No.08	近畿ろうきん等と近畿圏のNPO支援機関との協働による、京都府南山城村を中心とした中山間・過疎地域の課題解決を担う団体等を対象としたコーディネート事業（H24）		
実施主体	特定非営利活動法人きょうとNPOセンター	実施市町村	京都府相楽郡南山城村

◎事業の背景

○村民の3人に1人が65歳以上である

- ・京都府内の平均を10%以上をも上回る高齢化率であり、人口流動率も高い。

○さらに急激な人口減少が始まる（平成22年度を基準とした場合、平成37年に10%減）

- ・少子高齢化が府内で最も進んだ地域であり、自主財源にも乏しいうえに、生産年齢人口の減少により税収の伸びが期待し難い。また高齢者福祉の充実がより重要な課題となる事から、さらに住民サービスの低下が懸念される。

○限界に達しつつある行政改革

- ・すでに病院・消防・ごみ処理・し尿処理・中学校設置など住民に身近な事務の多くを一部事務組合により共同で運営せざるを得ない状況にある。職員数も府内の平均を下回る職員数に抑制している他、議員定数についても法定上限以下に抑え、三役の給料・手当も5~10%削減している。一般職員の給与についても調整

手当・管理職手当が削減され、ラスパイレス指数は、96.5%となっている。既に厳しい行政改革に取り組んでいるが、現状のままではさらなる行政改革の取り組みには限界があるものと思われる。

◎事業の概要

近畿圏内に多数の預金者や労働者のネットワークをもつ近畿ろうきんと連携し、近畿ろうきんが持つ顧客と資源を、南山城村につなげ、地域の魅力創出と地域の支援者育成を行う。また、近畿ろうきんと近畿圏NPO支援機関との協働により、京都府内のみならず近畿圏内でこの取組みを波及させていく他、将来的にはファンドレイジング支援に実績のある公益財団法人京都地域創造基金とも連携し、団体の経営面の課題解決にも取り組む。

事業1. 地域+市民（顧客）「出会い」事業：ソーシャルツーリズムの実施

近畿ろうきんが近畿圏内に有している顧客や預金者の方々を対象に、地域の新しい公共の活動を展開する南山城村等の過疎・中山間地域でがんばる人々・若者をつなげる取組みとしての「ソーシャルツーリズム」（3回）を実施する。

これまで中山間・過疎地域に関心のなかった方々たちが実際の地域や現場を訪問し、課題を共有する事を通じて、活動への共感や支援を引き出す。

これらの事業を通じて、長期的には、顧客や預金者が南山城村等の過疎地域への移住につながることも目指しながら、地域づくり活動の応援団として、団体の会員や寄付者、継続的な活動のボランティアを担う支援者を育成する。

事業2. 金融機関等+地域「掘り起こし事業：経営力向上のためのコンサルティングの実施

南山城村を中心とした中山間・過疎地域で活動する団体の経営力向上を目的としたセミナーの開催（3回）やコンサルティング事業（2回）を行う。

上記のツーリズムで抽出した魅力創出のためのアイデアを活用した経営資源の掘り起こし、助成金獲得、融資などの資金調達ノウハウ獲得、会計や労務等の実務支援を近畿ろうきん等と協力し実施する。

事業3. 地域+地域「つながる」事業：近畿中山間地域ネットワークの形成

近畿ろうきんと近畿圏NPO中間支援機関との協働で、南山城村と同様に各地域で過疎・中山間

地域の活性化や都市間連携に取り組んでいる団体が一同に介し、それぞれの取組みの成果や課題を共有しあうシンポジウム（1回）を開催する。

また事業の実施に向けて、近畿圏の中間支援組織と「中山間地域の地域づくり」をテーマとした意見交換を目的としたネットワーク会議（2回）を開催する。

ステークホルダー	役割
①特定非営利活動法人きょうと NPO センター	事業全体の企画・運営、協力先との連携
②NPO 法人 手作りを愛する会. 楽円 RAKUEN	ソーシャルツーリズム事業の担い手として、継続した都市住民の受入に関するプログラムづくり等を課題に取組みを実施
③NPO 法人花鳥の郷をつくる会	ソーシャルツーリズム事業の担い手として、継続した都市住民の受入に関するプログラムづくり等を課題に取組みを実施
④NPO 法人けいはんな薬膳研究所	経営力向上のためのコンサルティングにおいて、事業展開を行う為の組織基盤向上のコンサルティング（実務）を実施
⑤NPO 法人やましろ里山の会	経営力向上のためのコンサルティングにおいて、事業展開を行う為の組織基盤向上のコンサルティング（実務）を実施。
⑥近畿ろうきん	経営資源の掘り起こし、助成金獲得、融資などの資金調達のノウハウ獲得、会計や労務等の実務支援への協力
⑦近畿圏 NPO の中間支援機関	シンポジウム、ネットワーク会議開催支援
⑧公益財団法人京都地域創造基金	寄付プログラムの開発など、団体の経営面の課題解決に向けた支援

（1）中間支援の特徴（取組の中で見られた工夫や取組が上手く進んだポイント等）

- …中間支援における特徴的な工夫 ●…中間支援における失敗と対応

実施中（平成24年度）

●金融機関が有する資源を生かしたエコツーリズムの実施

村のファンをつくるためには、まずは村に来てもらうことが必要であったことから、地元金融機関の協力を得て、金融機関が有する資源（預金者）に対して、里山体験型のツアーを造成して周知を図り、効果的な参加者確保につなげた。

●継続的な関わりを大切にしたい体験プログラムの提供により村のファンづくりにつなげる

都市部の住民が継続して村に関われるように、村の「ファン」になるきっかけづくりを重視してプログラムづくりを行った。具体的には、ワークショップ1（間伐体験）では作業の意義を共有するとともに、間伐後の里山の姿を見ることで達成感と楽しさを共有できるよう心がけた。また、ワークショップ2（椎茸の原木づくり）では、収穫を一緒に行う等の継続的な取組みのきっかけとした。

●おもてなしへの配慮により、参加者の満足度を高める

単なる一過性の体験プログラムとならないように、ワークショップ及び昼食では、以下の点に留意した結果、参加者の満足度を高めることができた。

- ◎ワークショップでは複数のスタッフ（村の住民）を配置して、参加者とスタッフがコミュニケーションとりながら、村や活動への思い、村の魅力等がしっかり伝わるようにした。
- ◎ワークショップでは大人向け、子ども向けといった世代別プログラムではなく、親子が同時に体験できるプログラムとした。
- ◎昼食では、村で出来た食材を出来る限り使用し、その作り方や作り手の思い、村に伝わる調理方法等を伝えるようにした。
- ◎昼食及びワークショップを通じて、今後の村での行事、イベントも伝え、今後も継続して気軽に参加できる受け入れ姿勢を伝えた。

(2) 成果と課題

(事業の成果)

◎南山城村のファンづくりに寄与

地元 NPO が都市部の住民向けに企画・運営した体験プログラムを通じて、交流人口の一時的な拡大ではなく、本当に南山城村を好きになってくれるファンづくりに寄与できた。また、これにより、継続的な地域活性化の取組みを行う機運を醸造することができた。

具体的には、ソーシャルツーリズム終了後、地元 NPO への賛助会員としての入会やイベントの参加等へつながったケースがあった。また、今回のソーシャルツーリズムは参加者の口コミによる周知力が強く、会を重ねるにつれて参加者が増加した。これらはツーリズムに参加した人が南山城村の営業マンとして、地域の魅力等を他の都市住民に伝えた効果が考えられる。

◎NPO が抱える課題の共有と解決への寄与

セミナーを通じて、地域で活動する NPO の課題が共有化され、それに向けて「なんとかしたい」という思いを共有化することができた。また、セミナーでは質疑応答の時間をとり、個別課題について出来る限り解決に向けた対応を行った。また、その場で解決できない事案については、コンサルティング事業へとつなぎ、可能な限り NPO に寄り添った形での課題解決を行うことができた。

◎中山間地域における課題、地域活性化事例の共有

ネットワーク会議を通じて、中山間地域の活性化は、将来の都市部での課題という共有認識をもつことができ、地域差はあるが、近畿圏の NPO 中間支援組織の共通課題として認識・共有化することができた。また、ネットワーク会議及びセミナーを通じて、近畿圏の各地域で展開されている地域活性化の事例を共有することができた。

(事業の課題)

◎継続的な取組を支える基金の立ち上げ

本事業での成果を生かし、ソーシャルツーリズムで構築された都市部とのつながりを継続するための情報発信やイベント等の開催、また、都市部資源を南山城村につなげるコーディネートの展開等が重要であり、そのための資金調達として、「南山城むらづくり基金（仮称）」の立ち上げに取り組む。

(3) 今後の展望

◎近畿中山間地域のネットワーク形成

ネットワーク会議及びシンポジウムで共有した地域課題や活性化の方向性について、広く情報発信し、実践していくことが必要である。

◎基金の管理・運用を担う信用と実務力の確保

先に述べた「南山城むらづくり基金（仮称）」を設置・運営ができるように、情報開示を通じた信用力の向上と運営を担うための実務力の向上が必要である。